

ミカン剪定を実習

三重県
南伊勢町

担い手確保で最終講



溝口会長④から剪定方法を教わる受講生

【三重・伊勢】南勢産地でみかん農家をワイワイ育てる会は2月上旬、南伊勢町役場南勢庁舎と同町内にあるミカン園地で、本年度最後となる「みかんの

学校」の第6回講習会を開いた。受講生は、ミカンの剪定（せんてい）について学んだ。本年度の学校には、かんきつ栽培に興味のある6人が受講した。

みかんの学校は、町内のかんきつ生産者らでつくる同会が主催する取り組みだ。同町の主産業であるかんきつ生産の担い手確保と育成が狙い。かんきつ生産者、同町水産農林課やJA伊勢、県中央農業改良普及センターでつくる「南勢産地協議会」が協力する。受講

生は本年度、6回にわたって栽培管理の基礎知識や技術などを学んできた。

この日は、同庁舎で同JA職員が剪定方法や注意点などを説明した。ミカン園地では、生産者3人が講師となって実習を行った。受講生らは、講師らの剪定方法を見ながら、ポイントなどを学んだ。また、実習終了後には、同会の会長を務める溝口安幸さん（69）から、受講生に修了証書が手渡された。

溝口会長は「若い人

たちがミカン栽培に関心を持って学んでくれるのはうれしい。講習会では、座学だけでなく、実習も行うことで実践的な学びになるように工夫している。技術を継承し、生産地の

維持とさらなる発展を目指す」と話していた。

同町では、古くから温暖な気候を生かしたミカンの栽培が盛んで、現在の生産者数は約100戸に達する。